

フリーズ&センテンス ①

近年、日本の人口減少に伴う「地方消滅」の危機が注目されています。足立区でも、30年後にはおよそ10%の人口が減少すると考えられています。多くの人は、少なくとも増やさなければ！と考えるでしょう。現に、数々の少子化対策も実施されています。

しかし、この本では人口は減少するものであり、少なくとも人口でいかに豊かに暮らしていくのか、と考えています。例えば、自分の住んでいる町の人口構成を考えるワークショップを行った時、都市の中に虫食い状に出現する空き地・空き家を、どうすれば有効に使えるのかを地域のみなどで考えたりと、様々なアプローチで自分たちの暮らしと都市を捉えなおす試みが紹介されています。

「都市」というものを維持するためには私たちがいるのではなく、私たちの豊かな暮らしを実現する場所が都市である、という当たり前の事実を、改めて気付かされた本でした。都市を使ってどう暮らししていくか、改めて考えてみませんか？(丸山)

WHAT'S NDC ③

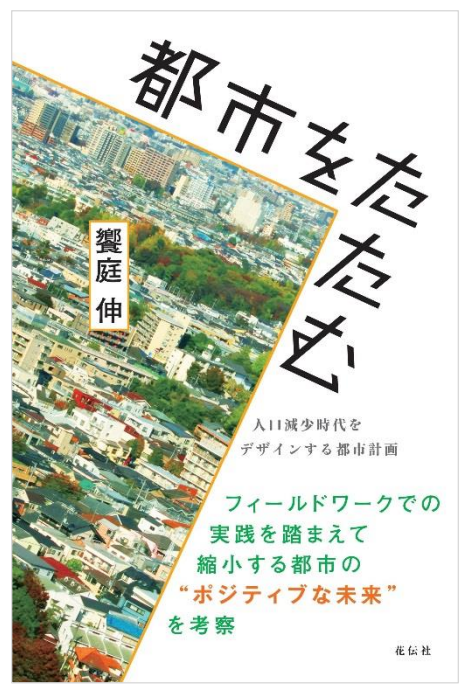
NDCとは簡単にいうと、O○○の10ジャンルの分類方法のことをいいます。ここでは図書館の本を分類する際に使われる「日本十進分類法」について説明します。今回の「7」は芸術。美術や音楽に始まり、演劇、スポーツに関する本もこの7門に集められています。

その中で紹介するのは画家についての1冊。ピカソやダリなど、有名な画家の絵はポスターやテレビで使用されることも多く、目にするのは珍しくありません。しかし、そんな有名な画家でも、その人物がどんな生涯を送ったのか知っている人はどれくらいいるでしょうか。この「101人の画家」では101人の人生をストーリー漫画にして解説していきます。101人もいるので、1人につき2ページという少ないページ数の中、人生年表やその画家のおすすめ作品も記載されていて、物足りなさを感じさせません。美術に興味のある人はもちろん、この本を読むことで興味を持つきっかけにもなります。(竹原)

やよい TOPIX 本と出会う。



「都市をどのような目的のもとで使っていけばよいのだろうか」



① 都市をたたむ 饗庭伸/著 花伝社

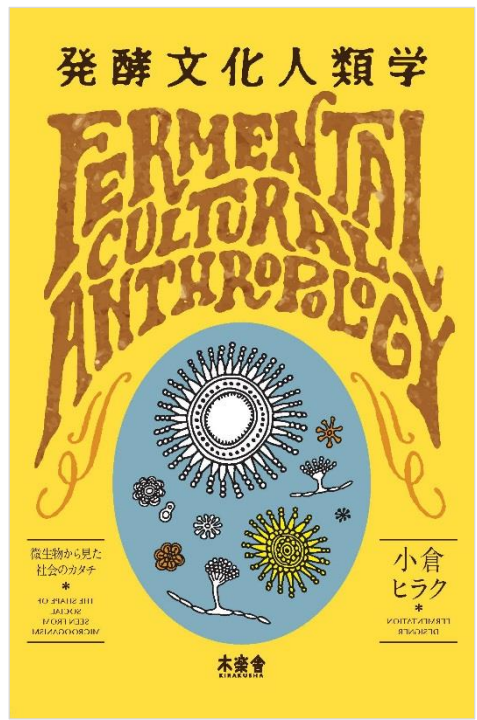


② こころの掃除術 斎藤茂太/著 新講社

こんな本もありますよ！
 『片づけ下手な右脳人間のための整理本』リー・シルバー/著 主婦の友社
 『やまっぴやさん、ひたっぴかいつ!』松山 円香/作 あかね書房



③ 101人の画家 生きてることか101倍楽しくなる。早坂優子/著 視覚デザイン研究所



④ 発酵文化人類学 小倉ヒラク/著・イラスト 木楽舎

読書の窓 ②

9月24日は「清掃の日」。これは昭和46年の24日に廃棄物処理及び清掃に関する法律、「廃棄物処理法」が施行されたことにちなんでいます。また9月24日から30日まで「環境衛生週間」です。廃棄物をできる限り減らし環境美化に努めることを目的としています。

ということで今月紹介する本のテーマは「清掃」。しかし、掃除するのは家や机の上のような見えるものはありません。キレイにするのは「こころ」。普段の生活のあれこれ溜まった悩みや不満、そんなストレスを掃除して、すっきり足取り軽く生活したい。本書ではそんな人へ向けて精神科医である著者が様々な方向からアドバイスをしています。なかなか最近気が重い、気づけば毎日不安ばかり、そんないつの間にか溜まったストレスを理解し、解きほぐすことで心がすっきりして悩みも違った見方ができるようになるかもしれせん。この本を読んで、気持ちをリフレッシュしてみませんか？(竹原)

再生館 セレクト ④

「微生物から見た社会のカタチ」

味噌、醤油、お酒、麴、ワイン、ヨーグルトなど、私達の食卓に欠かせない食品たちは微生物のちから、「発酵」により作られています。

人類はこの微生物のちからをどのように使って美味しい食物を作ってきたのか？

自称、発酵デザイナーの著者が文化人類学の手法で楽しく、面白く解き明かしてくれます。でも、発酵と環境やリサイクルとはどんな関係があるのでしょうか。実は生ごみから、たい肥を作る過程(環境に優しいリサイクル)でも、この微生物の「食物を変化させる」ちからを使っているのです。そんな視点で読むとあなたもきっと、手前みそを作りたいくなりますよ。

夏休みの自由研究のテーマにもぴったりです。あだち再生館の図書コーナーに置いておりますので、ぜひどうぞ。(再生館職員)